平成２６年度　第２回南伊豆町学校統合審議会議事要旨

１　開催日時　平成 27 年 1 月 26 日(月)　19：00～20：35

２　開催場所　役場湯けむりホール

３　出 席 者

（委員）

木下和美（会長：学識経験者）、　佐野　薫（副会長：南伊豆中学校長）、
川合信子（南中小学校長）、高橋美智子（南上小学校長）、
高橋道敬（南伊豆中学校 PTA 代表）、加畑　毅（南中小 PTA 代表）、
惣田直樹（南上小学校 PTA 代表）、鈴木雅弘（南上小学校 PTA）、
中村弘美（南上小学校 PTA）、佐藤浩美（南上小学校 PTA）、
平山　繁（南崎地区代表区長）、土屋　誠（南中地区代表区長）、
齋藤八州照（南上地区代表区長）、外岡円治（三坂地区代表区長）、
齋藤守正（三浜地区代表区長）、竹河十九巳（公募選出）

（事務局）

勝田英夫（教育委員会事務局長）、白井秀治（学校教育係長）
小嶋淑子（学校教育係主任主事）

４　欠 席 者

山田明美（学識経験者）、関本宗一（竹麻地区代表区長）、

５　議　　事

・複式学級について
・今後のスケジュール
・その他

６　資　　料

・公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引
（案）文部科学省資料（※平成 27 年 1 月 19 日中央教育審議会）
・会長作成資料

7　会議経過（概要）

委員長挨拶　　第１回の統合審議会が終わり、実際に南上小学校の複式学級も見学して本日２回目の審議会ですが、統合審議会の答申内容を濃いものにしていかなければならい。そのためにどうしたらよいのかなと考えだしたわけですが、名案がなかなか見つからない中で、ちょうど文科省の方で、小中学校の適正規模に関する手引が、案という段階ですが発表されたので教育委員会から資料をいただきましたが、これを見ながら第２回目は小規模校のメリットデメリットを掘り下げていく必要があると感じたわけですが、この資料は、厚くてなかなか読みにくいので、私はこの中からいくつか抜粋して、小規模校のよさと課題を私なりに整理した資料を作成しました。中には私の考えも含まれますが、こういうのを参考に議論していければよいなと思っております。私たちは委員として話を進めるわけですが、統合あるいは統合しないで存続といことについて、広い目で内容を深く掘り下げて、さらには、将来的なことを見据えた中で、いろいろな意見が出されるとありがたいと思います。本日もよろしくお願いいたします。

事務局　　議事に入ります。前回の振り返りにもなりますが、第１回目は南上小の現状を確認するということで、現在の児童数、将来的な児童数の推移を確認させていただきました。そもそもこの審議会を開催する理由については、前回平成 17 年度の審議会で、平成 26 年以降も複式学級が解消できないと見込まれるときは、再度審議会を設置するという答申に基づいて行われているものです。第１回目の議事録については皆さんに送付させていただきました。町のホームページ上にもお知らせしてあります。そして前回の審議会で委員から提案のあった、実際に複式学級を見てはどうかという提案を受けて、12 月に南上小の校長先生にご配慮いただき、2，3 年生の複式学級を見学させていただきました。町の学習支援員が授業を担当しており、国のルールだと複式学級ですが、学習支援員により別々に授業をやっている姿、それと一緒の教室で授業を受けている姿を確認しました。もっとも学校の授業見学なので平日であり、委員の中では見学する方も限られてますが、見学をした委員で皆さんに一言お願いします。

委員　　複式学級を見させていただいたが、まずは廊下で児童の挨拶が非常にすばらし

いという感想を持ちました。なかなか学校に行く機会もないので、どこの学校でも同じでしょうが、最初の印象が良かったです。授業の方は、4 時間目の道徳の授業が私が思う複式学級のイメージに近かったです。主要科目は教室も別々に、学年も別々にしてますが、児童が少ないので全員が質問に答えて発表もして、こんな小さい時からこういう経験はすばらしいと思いました。成人になり、会社の会議などでも正々堂々人に臆することなく意見を述べれるような成人になるのだろうと思いました。大きい学校ではできないのかなという感想を持ちました。

委員　私が一番心配した複式学級のやり方を実際見てみたら、人数が少ないから先生の目が行き届く。私たちの時代は人数が多かったので、わからないときはそのままで、声を出すと恥ずかしいからだまっていましたが、一人ひとりが意見を述べて、そういう面ではよいのかなと思いましたけど、前回の審議会でも出た競争心が少ないというのがデメリットであると言われましたが、そういう面が心配だと感じました。

委員　私は南上小の学校役員をやっているので度々小学校に行く機会がありますが、この授業が当たり前のように感じていますが、本当に児童が、清々伸び伸び授業を実践している。人数の少ない良さを感じている。

事務局　校長先生はどう思われますか。

委員　委員長がまとめてくれた資料のとおり、両方良さも心配な面もありますよ。それを南上小学校で考えると、48 人がそれぞれいるので、あの子にとっては人数が少ない方はいいだろう、この子にとっては人数が多い方がいいだろうと、一概に全員共通ではないが、一人ひとりに活躍の場があって、1 クラス 40 人いると、1 時間の授業で発表できるのが 10 人かもしれないけど、うちの学校では全員発表できたりとか、誰かが、南上小の子はどうして音読が上手なのかと見に行ったら、みんながその授業時間にできる。私の子は南中小で 39 人で育ちましたが、手をあげてもなかなか発表できなくて、小さいときはスネたりしてましたが、そういった中で競争していく良さもありますが、今南上小学校では少人数の良さを最大限生かしてデメリットを少しでも解消できるように、学習発表会でも大勢の人に聞いていただく場を設けたわけですけど、文科省の

方でも、今回の手引きの中に、どうしても統合できない場合はデメリットをなるべく解消するよう努力しなさいとありましたので、これから家庭の方の意見も聞いたり、子どもにとって何が本当に良いか自分もしっかり考えて、皆さんの意見も聞きたいと思っています。

事務局　今回のテーマは複式学級についてです。前回の審議会の答申が、複式学級が解消されなければというのがついてきます。複式とはどうなんだと進めていく中で、どうしても複式について本当の良さや悪さが根拠としてがわからないということがあります。そんな中でテレビを見ていたら NHK ニュースで、文科省が自治体に手引きを示すという報道があったので、皆さんに手引きをお示ししました。まだ(案)が付いてますが、文科省は 1 月中に自治体に示すということになっております。複式学級の手引きといえるもので、今日は、今一度この手引きを確認したいと思います。私もそうですし、南上小の PTA の皆さんもそうだと思いますが、自分の時は複式学級でなかったと思われますので、そのあたりについて現役の先生方もいますので、この点については本日確認する会議にしたいと思います。皆さんこの手引きを一読されたと思いますが、概要だけ確認します。この手引きの 1 ページの第 1 章、学校規模の適正化が課題となる背景として、小中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいとあります。その次に、国では昭和 31 年に中央教育審議会の答申を踏まえ、昭和 32 年に学校統合の手引きを作成し、とあります。60 年前の手引きが今まで生きていたことになります。手引きを見ていくと、メリット、デメリット記述があります。統合しなかった場合についてのことも書いてあります。複式学級については 11 ページに、学校規模の標準を下回る場合の対応の目安、小学校の場合の中で、1 から 5 学級、複式学級が存在する規模について記述があります。概ね複式学級が存在する学校規模、学校全体の児童数や指導方法等にもよるが、一般に教育上の課題が極めて大きいとあります。手引きを見てこれが一番気になりました。何が問題なのかは資料の中にいろいろ書いてありますが、この課題が極めて大きいというのが気になるところです。ただ、この手引きでもありますが、規模が小さくても機械的に統合するものではないとあります。ただ、前回の審議会でも統合が解消されないと見込まれる場合はとあるように、複式は何らかの問題が、メリットよりはデメリットの方が大きいのかなと思います。そうでなければ複式というワードが出てこないと思っております。これは誘導しているわけではないですが、事務局として、一般的な判断として

述べたものです。今日はこのあたりについて審議していただくものです。ただ審議するにあたって本日の主役は現役の先生が中心になっていくかなと思ってます。この複式問題は、本日、全員が共通認識をして次のステップに入りたいと思います。これが共通認識できない場合は、次回 3 回目も複式がテーマになりますが、この手引きには、地域にとっての学校という記述もあります。第 3 回目は地域にとっての学校をテーマに開催したいと考えています。さらにこの手引きは、これから小学校に入るであろう未就学児世帯の意見も尊重することとあります。必然とアンケート調査になってきます。そういう段階においての今日のテーマ複式です。手引きには、一般的なメリットデメリットありますが、会長が作成した資料があるので、これに基づいて進めます。会長は会を統括する立場でありますが、会長は前回の審議会の委員であること、そして教員であった経験にも基づいて作成した資料であります。そういう進め方でお願いします。

委員　今まで配布された資料、第 1 回目の資料がありますが、この資料は、文科省の資料が出たことによって廃案になるのですか。この手引きの 4 ページですが、本手引きの通知を持って昭和 31 年の手引きが廃止しますとあります。前回での資料は廃案なのでしょうか。

事務局　これは文科省が出した手引きであって、あくまでも目安というものです。なので、この委員会は地域の方の意見も聞きますし、先ほども申しましたが、小規模だから統合を機械的に行うものではないとあります。この手引きだと町内の学校すべて対象になります。皆さんの意見を聞くための審議会なので、この手引きは目安です。ただ目安と言っても、素人が作成した手引きではないという事実もあります。

委員　今までいただいた資料を見て、今回の資料について思うことは、少し違うかなという感じです。どっちを手引きとして参考にしたらよいか。

事務局　たまたまタイムリーにこの手引きが出たので配布しました。全国的にも、この手引きに沿った流れになると思います。ただこの手引きだと明日にでも統合です。そういうことではないので、皆さんと確認する委員会となります。手引きでは、通学時間のこともあります。また離島など物理的に統合できない場合に

ついても記述があります。地域コミュニティについてもあります。

委員　　そういう地域コミュニティについても話し合いたいです。

事務局　　今日は、複式学級で話し合いたいと思います。

会長　　複式学級や、少人数学級のメリットデメリットについて理解を深めたいと思います。私の資料は、この手引きを読みながら自分なりに整理したものですが、まず教育とは、について、教育基本法に目的がうたわれているのですが、そこに触れたいと思います。教育とは、人格の完成を目指すとあります。人格とは何かというと、平和的な国家及び社会の形成者として、あるいは真理と正義を愛し、あるいは個人と価値を尊び、勤労と責任を重んじる、自主的精神に満ちた、心身ともに健康な、国民の育成を期して行わなければならない、こういう項目が人格としてうたわれております。こういうものを学校教育として目指していくんだというのが、学校のおおもとの基本であると思います。今回の手引きにおいては、少人数校の良さと課題を抜粋したものですが、２．３付け加えたものもありますが、どんなメリットがあるのか、どんなデメリットがあるのかですが、先生に伺いたいと思います。

委員　　一つ確認ですが、複式学級について云々ということと、少人数では多少違うかなと思います。そのあたりが少し難しいことでもありますが。

会長　　小規模校になると、南上小も南中小も該当してくると思います。ここの統合審議会で話し合うことは、1クラスの中の人数が少人数でというのと、1クラスの人数がある程度いるというので振り分けたいと思います。そうしないと町内の学校は全て統合審議会になります。話が進みようがないものになります。1クラスの人数が多い、少ないのでは、学校運営上に違いが出てきます。

委員　　自分なりに複式学級の良さと課題、ある程度の人数がいる学級の良さと課題を見つけてきましたけど、会長の資料とほぼ同じ感想を持っております。ただ複式学級というのは、1つの学級に2学年の子どもがいるということで、これもまた良さと悪さがあるのが自分の経験で感じるところです。詳しいことは資料に書いてあるとおりだと思いますけど、複式で上の学年の子供たちが、下の学

年の子供たちにいろいろなことを教えたり相談したりという中で、上級生のリーダシップ性も高まり、下級生はその姿を見て育ちますが、学習面では、違う学年それぞれの学年につけたい学力を身につけられるかという課題があるかなと思います。いろいろな活動をする中でも同じことが言えるわけで、それぞれの良さと課題を解消するような方法を考えていかなければと感じていますが、具体的にというと難しいですが。学習面では年間の指導計画をきちん立てないと難しいと感じます。複式学級で技能教科を 2 学年一緒にやってる場合がありますが、3，4 年生が 1 つの学級はやりやすいですが、2 年と 3 年の複式の場合は、学級編制の工夫したりして、たぶん南上小もそういう工夫をしてやられているのかなと思います。人間関係においては、大勢いるとそれだけ多くの関わりが持てるのでいろいろなことを学べる良さがあります。学習の中でも多様な考え方をお互いが知り合えることがあります。

会長　年間の指導計画を立てるのが非常に難しいなと思うのが、12 月に南上小の授業を見学させてもらったときに、道徳の授業が、上の学年はその前の年に授業を受けていた内容であった。同じ資料だったわけで、これは指導者側が、同じ学年をずっと受け持つわけではなく、入れ替わりがあるので、入れ替わった時に、これだけ指導したよとか、これは指導していないという引き継ぎが非常に難しいだろうなと。それから授業を持ってた先生が転出して、新しく来たせんし恵の場合は尚更かなと。そういうことも感じたので、年間の計画を立てるには、道徳に限らずどの教科でも難しい、負担度の大きいと感じました。子供たちは表情が良くて、人数が少ないので子供たちや教員と気心が通じて安心して授業を受けているそういう良さも感じました。

事務局　12 月に南上小学校に複式学級の見学に行ったときに、道徳の授業だったんですが、複式の悪いところを見せてくれたのかはわかりませんが、授業内で考えさせる場面があった時に、2 年生が考えているときに、3 年生は昨年やっているので、それ知ってるよという感じになっていました。

委員　それは意図的にやったわけではないが、3 年生のリーダシップをというのもあったと思う。ただ他の教科も含めて記録をして引き継ぎはやっていますので、そこが落ちるとか劣るとかはないですが、確かに先生方の労力はかなりあると思いますけど。道徳については私も気になりましたが、3 年生が内容を深めて

いると扱いました。連絡ができていないというものではありません。

会長　少人数の良さや課題についてはどうですか。

委員　資料のメリットに付け加えるとすれば、基礎学力の面で、誰が出来ていて、誰が出来ていないかを具体的に把握できるので、それについては先生方が、私も大きい学校小さい学校行っているので一目瞭然です。この子はここが悪いとかきめ細やかに指導していったり、同じ漢字テストをしても、10 人ではすぐ採点し、すぐ返すことができるけど、30 人クラスだと、一度家に持ち帰って、明日返してとなります。区長さんも先ほど言いましたが、表現力が育つとありましたが、スピーチをやるにしても、全員が 1 時間でできたり、音読を何回もできます。係活動をやるにしても、一人二役や三役でやっていくので、たとえば 1 つの係を 6 人でやってなかなか順番が来ないとかそういうことはないかな。理科の実験をやっていて、マッチを擦るにしても、6 人の班だとなかなかできないけど、南上小では全員が体験できる良さがあると思います。その反面やっぱり、10 人の中でいるよりは、10 人、20 人でいた方が様々な考え方に触れ合う方が良い子もいますし、自分の思い通りにならないことを我慢することを学ぶことも大事かと思います。ただ反面、仲間関係の中で悩むこととか子ども自身はそれを心配している、うまくいかなくなったときどうしようという点を、資料に付け加えるとしたらこれかなと思います。

事務局　学習面だと絶対的に有利ですか。絶対的はともかくですが。

委員　例えば多様な考え方というと、10 人と 30 人では違うけど、基礎学力の面ではやる機会は増えます。

副会長　今聞いていると、大人数になると一斉指導になるという話をしていませんか。大人数でもグループにすれば、その中で個々の考え方は活かせるし個々の意見も取り上げられる。大人数だと意見が通らないとか、順番が回ってこないとか、マッチが擦れないとかいうのではないよね。大人数だって 3 人のグループにしたり 5 人にしたり、ときには 10 人のグループにしたり、これが大人数の良さだし、すごいメリット。グループ同士で話し合いをさせることもできる。グループの中の 3 人で話し合うこともできる。少人数ではそれができない。3 人で

しかできないとか４人でしかできないという幅はどうしても狭くなる。だから少人数だから良いんだという発想ではない。人数を分ければ、グループ同士のぶつかり合いや意見交換ができる。より高い意見に持って行ける可能性がある。3 人では 3 人の意見が１つにまとまってしまうとそれ以上にはならないし出てこない。あるいは、ずっと小さいころから仲良しでいる良さもある。何て言うかいろんなことを作らなくても素で出せるし、それが一番楽なんだけど、逆に言うと、そのことで、どうせ誰々ちゃんの意見で通るからという風になりがちなデメリットもある。だから少ないと良いですよ、多いと大変ですよという話の組み立て方ではないです。もう１つ、少人数と複式は別の問題があります。複式というのは、違う学年が同じところに存在しているわけです。授業は確かに成り立ちます。だけど、先生にはものすごい労力が必要になります。ものすごい準備と、さっき言った年間計画、引き継ぎもしなければならない。もう１つは先生の力量です。2 学年を同じ学級の中で授業できる力量、これがないとできないです。だから、いま南上小はすばらしい複式学級をやってもらっていますが、年齢は賀茂地区で一番高いベテラン教師がそろっています。これが、1 年目、2 年目の先生だったらどうなりますか。ということも考える部分かな。校長も先生もみんなで育てるんですけど、残念ながらすぐできるスーパースターはいませんので考えていただく材料と思いますけど、教師側のだらしないこと言うなよということで終わっちゃう話ですけど、そうではなくて、少人数で少ないこと、２学年が同じところにいることは、分けて考えていく必要があります。

委員　　２年生３年生が複式でありますが、２年生３年生を教えるのに先生は大変とのことですが、どのように大変なのですか。私たちが考えるに、どうってことは無いように感じますけど。

副委員長　　簡単に言うと、２年生の課程を修了しないと３年生になれないわけで、２年生の学習の積み上げで３年生になるのです。積み上げ最中と、積み上げ終わったのでは、先ほどの道徳ではないけど、先生それは知ってるよ、これはこうだよ、と言ったら２年生の学習にならない。

委員　　そうすると２年生と３年生がいるときに、先生が２年生と３年生に対してどのように言うのですか。

副委員長　　別々の課題を与えなければならないです。1 時間の中で別々の課題を与えていくことが難しいんです。これは中学校では無理ですから、複式はないんです。そういう問題があります。これが 1 年から 6 年まで複式だったらどうなりますかということです。確かに意見は取り入れられるし、だけどそれは 40 人いる中で 5 人のグループを組んで、そのグループの中でも意見は取り入れられます。それから他の 5 人のグループの意見交換もできます。意見の違いを討議することもできます。自分を活かす場はどこでもあります。

委員　　今の話を聞いていると、複式学級は大変だからいかんよとも聞こえますが。

副会長　　いかんよとは言っていませんが、メリットもたくさんありますが、難しさもたくさんあります。ずっとある学年、例えば 2，3 年は複式で次は単独だったら 1 年間のことですが。

委員　　教育委員会がベテランの先生を配置していかなければ、運営していくことが難しいような感じですか。

副委員長　　その感じはあります。私の中では、よほど能力が高くないと複式の担任にはできないなという思いはあります。今の南上小の先生方は一生懸命頑張っていますね。

委員　　（前回の人数推移表を見て）5 人で推移していく児童を教えるのにですが、そんなに大変なのかなと思うんだけど、やっぱり大変ですか。

副委員長　　大変ですね。失礼ですが、そんなに簡単なものではありません。子供が二人でも大変です。同じ考え方ではないので。子供の良さも課題も違いますから。それが違う学年にいるわけですから。それが同じ学年ならよいですが、2 学年いると目標が 2 つあるので。支援員をつけて 2 つに分けることもありますが、それは本質ではなく、複式の本当の考え方ではないので、これは少人数指導の考え方です。

委員　　南上小の授業見学で見た限りでは、道徳は複式でしたが、他の教科は複式なんだけど学年を分けて授業やっていますよね。だから差し支えないと思います

会長　　が。本来は、同じ教室でやらなければならない。ところが今言ったように複式で授業やるには非常に大変だから、国語とか算数とか教科については 2 つに分けてやりたいというのがあります。だけどそれをやるには、国の基準での教師の人数ではできない、やりきれないので、町が支援員を付けてくれている。町の予算の中で。国や県からまわってくる予算とは別に支援員を配置してもらっている。その支援員を有効にして 2 つに分けている。だから町で予算が使えなくなったら、厳しくなったら支援員は配置できなくなり、複式学級授業になります。

委員　　その問題が考えられたから前回質問したのです。

会長　　全部の教科ではなくて、たぶん、図工とか音楽とか体育は 2 学年を 1 つにしてやっているのだろうと思います。全部はやり切れないでしょうが。

委員　　複式学級は、南上小見学時に見たことを当たり前のようにやっていたと思っていましたが、それなら問題ないと思ったが、今聞いた内容では、支援員がいないと 2 学年なのでそれでは大変なんだろうなと感じました。

事務局　　今の会長の話が全てで、町長は教育予算については理解があると思います。これについては南上小の複式が大変だから特別に支援員を配置したものではなく、東小や南中小も配置しております。今まで幼稚園にいた 1 年生 35 人を先生が 1 名で見るのも大変ですし、特別に指導を必要とする子もいます。そういう授業のサポート的な支援員を配置していますが、必ずしも支援員を付けなければならないとはどこにも書いてありませんし、財政状況にもよります。これから新年度予算編成の精査が始まりますが、予算は教育のためだけではないので将来的にも支援員が配置できるかはわかりません。

委員　　前回の説明だと、主要科目は分けて授業しているということでしたけど、三浜小が統合して 1 年近くなりますが、親御さんに問題点があるか聞いてみたが、朝のバスの時間は、三浜小に行くのも南中小に行くのも同じ時間帯で変わらないと。しいて言えば通学時間が長くなったと、今までは児童が少なかったのでどうしても先生に頼る気持ちがあったが、南中小に通うと人数が増えそうはいかないので戸惑いが起きたと。でも子供は成長が早いですから、自立心が芽生

えて時が解決してくれたと。それからメリットにもありましたが、友達が増えたのと、一番なのは同級生が増えたので競争心が出てきたと。ライバル心が芽生えてきたと言っていました。統廃合に関しては、三浜小は何年も入学式が無かったので、賛成とか反対とかそういう状況ではなかったいうことでした。

事務局　三浜小から南中小の校長となりましたが、やはり競争心が芽生えたのでしょうか。

委員　今おっしゃるように自立心はかなり芽生えてきたように思います。

委員　まあ三浜小では競争心が無かったということではなくて、児童数が多くなったからより強くなったというものと解釈しております。

会長　今出た質問の関連で、三浜小から南中小に移ったことで、競争という面でわかったことがあればお願いします。

委員　今のようなことを私も保護者から聞いております。子供たちの様子からも感じております。統合してすぐの頃は、戸惑いもあったり友達関係をどうしていったらよいのかというのは見えましたけど、いろいろ経験していく中で、自分なりに解決して、今は自分のポジションをしっかり持った中で生活しているのを感じます。少人数も少ない中で打ち解けて、家族のような中で育った三浜小と、それから自分でちゃんと判断しなければならない南中小の生活を両方味わっているので、統合に関わった三浜小の児童は幸せだと思います。それぞれの良さが表裏一体となっているのでどちらがよいとかは難しいですけど、どちらを望んでいるのか、どちらが子供たちの力をつけていくのかを考えていくと、どちらが良いのか先が見えてくると感じます。

委員　委員は南上小から三浜小に行きましたね。南上小と三浜小の子供違いはありましたか。

委員　あります。学校ごとにそれぞれの色があります。自分が勤めた学校はすべてすてきな学校です。この場に来るとどういう立場でどういう意見を言ってよいか難しいのですが、それぞれの良さを最大限に活かした学校経営をどの学校もや

っているので、こうだからダメとか良いとかはなかなか難しいです。

副会長　　南崎小にもいましたよね。

委員　　南崎小は、南上小もそうでしょうが教室の前と後ろに黒板があって、ずっと前は、前で授業をやって、ここをやってくださいと言って後ろに行って授業をやっていました。

委員　　この委員会の中で複式学級を受けたことがあるのは私だけかなと思います。その当時は静岡の学校に行っていて複式学級を受けていた。やり方としては、先ほどのとおり前と後ろで授業だった。もっと言うと教科の作り方が難しいのもある程度理解できます。私は自動車学校で学科指導員を 23 年間やっていました。教員免許も持っているので。教科の作り方は相当難しいと思います。

委員　　大賀茂小学校をつくったときに、当時、複式学級をつくると教育委員会や設計者と考えてオープンな教室で作ったのですが、今は人が増えてきたので個別になってきたのですが、当時は前と後ろで授業を行っていた。だから一つ一つの教室で勉強しなくても、一緒の場所で子供たちは、自分の勉強する教科でなくても後ろで聞いていればよいのではないか。それぞれグループ学習とか、複式学級のやり方を工夫すれば、子供たちは適応能力があるんじゃないかと思います。

委員　　私は、複式の渡りという授業を、三浜小が初めて複式学級となった 7 人の 2 年生と 7 人の 3 年生を担任しました。その時は学習支援員がいなかったので、国語は教頭が 3 年生、私が 2 年生の国語をやりました。算数は前と後ろの黒板でやりました。2 年生に掛け算を教えているとき、3 年生は前の時間とずれるんですよ、前の時間に教えてあったのをプリント学習にしている間、15 分間教えるわけですよ。画用紙に考えを書かせている間に、こっちへ来て授業をやるのですが、よくしたもんで、私は大変だったですけど、子どもは大したもんで、2 年生で算数係がいて、先生が 3 年生を教えているときに自分たちで発表を始めましょうと、自分たちで授業を仕切りながら発表をはじめながら、それを聞いていて、こちらが終わったらそちらに行くという形で、それなりにでした。その年は私は教材研究も大変でしたが、勉強させてもらってありがたかっ

たと思いました。だからできないということではなくて、確かに先生方の力量は必要かもしれないけど、でも本気になって一生懸命やれば、新採用の先生では無理かもしれないけど、その辺は校長の担任の配置とかで、そういう人にそういう学級にはしないでしょうし、先生は大変ですが。

会長　先生は力量があったんですね。

委員　三浜小のあとにいろいろな学校に言っている間に支援員が付くようになっていて、町が教育にお金をかけてくれてありがたいと思いました。

会長　子どもを育てて、自分でどんどん発表できるのは良いですね。

委員　本当によくしたもので、担任が 3 年生の授業を見てる時に、20 分と 20 分で分けてやりたいが、うまくいかないこともあり、そのあたりは子供たちががんばってくれました。

会長　私は、学校教育で大事なのは学力をつけるというのもあるのですけど、教育とは人格の完成を目指す、そうした時に集団の中で子供たちが切磋琢磨して、お互いに磨き合って、あるいは別の意味になって競い合う、競い合ってやっていく力、集団の中に溶け込んで、お互いに意思疎通してコミュニケーション能力を高める、今学校教育の中でわりと求められているのが、コミュニケーション能力ですよね。そういうものをどうやって子供たちに身につけさせていくのか、そういうことが大事なことなのかなと。そういう点において、複式学級がある小さな学校では、どのようにしてそれをカバーしていくのかが気になる所ですけど、それともう 1 つ、子供たちの成長においては、子供たちはつまずきをなくしてスンナリスンナリ成長していくことではなくて、人間というのは、あえて少しずつ躓いて、躓きを積み重ねて芯の強い、最近の教育の言葉では生きる力とありますが、そうなっていくのですね。ようするに挫折に強い子供を、そういう力をつける子どもにしなければと思います。そう言ったときに、例えば揉め事というのは大人数で起こりやすい、小さなところでそういった力をいかにして身につけていくのか、その辺をどのように工夫してやっていくのか、その辺が一番気になるところです。学力とともに雑草のような強さを、踏まれても起き上がる力を身につけさせてやるのが学校教育にあるのかと思います。

委員　南上小については学級というよりも、学校で何とかということで、縦割り活動とか、私も久しぶりに南上小に戻って、マラソン大会とか、ものすごい差がついてしまって序列につながるかと心配しましたが、結構デットヒートして、まだなんとかやれているのかなと。縦割りの中で工夫して 40 人のクラスのようにいかない努力をしています。同級生の良さも縦割りの良さもあり、どちらも弊害があって、校長としてはおかれた学校の中で、やはり躓くというのが大事で、この間総合の発表会があったのですけど、試行錯誤と言うのが大事なんだろうというのがあって、総合は算数と違って自分で選べる学習なので、先生が全部教えるのではなく、自分たちで見つけて、困ったら、わからなかったら先生に聞くことができる教科なので、工夫しながら南上小の子供たちにそういう力を身につけさせることをやらなければと先日話し合ったのですけど、総合は失敗しても良い授業なので、失敗しそうでもあえて声掛けをせず、この間も 3 年生が水槽を片付けていて、先生が片付け方を言わなかったらビショビショに濡れたと。でもそれも大事だからと見ていて、先生方がそういう視点を持って接することが大事かと。

事務局　それはどこの学校でもやっていることですよね。

委員　どこでもやっていると思います。

会長　PTA 会長はどうですか。

委員　今日のテーマが複式学級と言うことですが、先ほど副会長が言っていましたが、大人数の良さも考えなくてはと思います。その意味で質問したいのが、例えば僕らの世代、団塊の世代ジュニアと呼ばれる世代、学年で 2 学級ですが、あの当時の人数規模が、複式学級とは別の意味での大変さがあったのか、あの当時なら大丈夫だったのかという感覚なのか、会長が僕が中 3 の時の担任だったんですよ。あの当時、余談ですけど、あの当時から僕らは成績が低かったですけど、でもだからと言って競争力がなかったということではなくて、高校に行ってからも競争力はあったわけで、今社会人になって、僕は青年会議所などをやっていて賀茂地区の連中と話していると決して南伊豆町は負けてはいないですよ。あの当時、東伊豆町の稲取がすごく成績が良くて、僕らの中では彼らは運動もできて頭も良い、人数も多いでしたが、社会人になってどうかと言

うと競っているわけですよ。2040 年問題では、東伊豆町は川根本町に続いて人口増減ワースト２です。消滅する可能性が高いということです。県内で５つワーストの中の４つが賀茂郡ですが、その中でも一番成績が良いのは南伊豆町なんです。あの頃の僕らでもそのあたりはクリアした実績があるわけです。統合はどっちの目から見て決定することになると思いますが、今日のテーマは複式ですけど、事務局が言われたように、町の規模からして予算が無ければ終わりですという形になるので、そうではない視点でいかなければならないので、僕はあくまでも子どもを第一に考えたときに、今彼らにどうしたらよいか言っても考えられないので、この先彼らがどういう方向に進んだほうが良いのかを考えたときに、複式学級の難しさと、あの当時いっぱいごちゃごちゃいて、会長がご苦労された時とどっちが難しいのかを聞いてみたいのと、複式が可能だったら、それが子供たちにとって一番良いのであればそれで良いのですが、ただ現実としてベースアップはできると思うのです、ただ伸び率の高い子が伸びないという現実もあるということが実際です。多分その作用が働いて中学の時に賀茂郡でよくなかったのですから。でも今思うと再検することもないんで、今後やっていく中で、子どもたちに一番良い環境を与えるのはどっちなのかということと、子ども中心で先生方が一番過ごしやすい環境が良いと思うんですよ。そうすると複式学級の難しさ、副会長が言ったいっぱいいる中で磨き合うのも良いんだという違いがどうあるのかがわかってきましたけど、質の違う難しさがありますか。

会長　私は小学校の担任は持ってないし、複式学級は経験ないですが、私前回も言いましたが、最初の学校は非常に大きい学校で、1 学年 10 学級、多いときは 12 学級ある学校でした。嫌だったかというと楽しかった。教えていても確かに子供の差は人数が多いからいろいろあります。あるけれどもその中で授業をやっても、指名をしても指名のやり方もいろいろ出てくるんですよね。この場面はちょっと苦手な子を、この場面は少し上の子をと、子どもでライバルの子を聞きながら、そうやってもっていくんですよね。それから学級対抗というのがあるんですよ。こちらでも紅組対白組がありますが、むこうでは 10 学級対抗ですよ。あそこの学級には負けられない。音楽会や学級コンクール、そうすると学級ががっちり固まるんですよ。助け合う。もちろん生徒指導の問題が大変な時期もあります。だけど、その大変な時期を差し引いても、担任をやっていて楽しいということがあった。そこから私は賀茂に入りました。自分の行った学

校は１クラスで、１クラスだと何となく張り合いが無くて、そういう感じをずっと持っていたわけですけど、やっぱり子どもが多いと、いろんな子どももいるし、いろんな子どもをいろんなところで活躍させる場面を作れる、期待通りの活躍をしてくれると教師として嬉しい、嬉しい思いがあるから楽しさになる。それがなくなってくるとなんとなく教師として寂しい思いがある。南伊豆中学校は私が来たときは２クラスあったが、２クラスだと対抗もできるし、いろんな子どももいるから授業も組み立てることができる。そういう点では楽しかったなと思います。

副会長　　まず１つは、学力問題です。テストはへき地の子は学力が低いです。というのがテストを受ける経験が少ない、外部テストや文科省テストもそうなんですけど、テストで試されるものは、数多くテスト問題を解いていれば慣れが出てきますから、ちゃんと問題を最後まで読んで、何を求めているのかがわかって、その問題を最後までしっかり書けます。それをあんまり経験してないんで、この南伊豆町というか賀茂地区の子供たち全体に言えるんですけど、そういうことに関してはもしかしたら点が伸びないのかもしれません。ただ、基礎学力が劣っているのかと言うとそんなことはありません。高校行って大学行って立派な社会人になっています。むしろ立派なところに行っている。それは基礎的に自分が伸びたいという意欲、向上心が満ち溢れているからです。より大きな世界で自分を試したいという意欲がある人が多いから頑張れる。ただ個、一人ひとりをしっかり見るのであれば少ない方がやっぱり良いにこしたことはありません。ただ、先生がずっと付き添って教えている分にはよいですが、先ほど会長が話した人間力をつける、人間性を高めるという中では、やはりクラス替えがあったり、新たな人間関係を生み出す力、こういったものがどうして必要になってきます。大勢でがちゃがちゃやっている、でも２クラスあれば次の学年で違った雰囲気に持っていくことができる。そんな中で自分をどう活かしていこうか、あるいは自分をどう抑えていこうか、ということを学んでいくのが社会性です。それは自分の人間力として備わっていきます。だからそういう面では、がちゃがちゃした２学級がある方が、伸びると思うんです。伸びる子どもたちが育つ環境かなと思うんです。ただ、個が、その子がどんな子だよ、こんな良さがあるよと見てもらうには少ないほうが良い。ただ自分で育とうとする能力は、やはりある程度の競争や、もまれていかないと育たないです。今私の学校の南伊豆中は２年生が２学級ありますが、この２学級は色が違います

から。22 人ずつの学級ですが、3 年生は 1 学級で 40 人で歩くところが無いくらい教室は狭いです。3 年生になると 180cm 近い子もいるので、その子らが 40 人いるとなかなか全員に声をかけられない子ももしかしたらいるのかもしれないですが、でもしっかり彼らは見てもらっています。40 人全員。2 クラスあると、40 人は 1 つの色しかないですが、2 年生はそれぞれの色が出ています。それぞれが面白いんです。それぞれ面白くなった色は、来年になるとまたシャッフルされて、また別の 2 学級が出来上がります。また自分たちで色を作り始めます。それが社会性というか人間力につながっていくものです。その中で、あいつが来たから頑張ろうという意欲も湧いてくる。中学生まで成長してくると、ふるさと南伊豆町の代表と感じてくるのが祭の時です。それ以外では自分たちは南伊豆町の代表という意識の方が中学になると強くなってきます。なのでそのあたりは、もまれながら彼らは自分の故郷を大事にしながら今のチームを大事にしている。そういう意識があって、中学生ならではの成長をしている。ただ今日の話しは小学校の段階の話しですから、どれだけ複式でできるのかという可能性を見出していくのも大事かなという話です。

会長　　ＰＴＡ会長どうですか。

委員　　私が南上小学校の時は、15 人の 1 学級で複式学級はなかったです。複式の経験はないのですけど、この文科省の手引きを読ませていただいて、複式が違う学年の子どもを 1 つの教室で授業を進めるということは、先生も教えるのも大変でしょうし、また学力も差があるでしょうし、3 年生で出来る子と、2 年生で出来ない子を一緒になって勉強するというのはハンデもありますし、授業が成り立つのかなという気もするんですよね。複式というのは本当に、子どものためにデメリットが大きいような気がしてならないです。小学校の子どもを持つ親御さんの意見が一番大事かなと思いますが、自分の感覚としてはデメリットが大きすぎるなと感じます。

会長　　もう一人のＰＴＡ会長さんお願いします。

委員　　今回の課題が複式学級で、いろいろなお母さんに聞いてもメリットデメリット言われています。ただ、それが統合するしないの一つの要素ですが、それだけではないと思います。今日はこの内容を理解して次の会議につなげられたらよ

いなと、そういう気持ちです。

会長　確かに統合を決めるのはこれだけではなくて、統合しないのであれば、ここに書かれてあるデメリットをどう解消していくか、そういうこともあります。

委員　先生方の意見も参考にさせていただきます。それぞれ良いところ悪いところあるんですよね。そういったのをみんなで煮詰めて実際に子供たちにどちらが良いのか。

会長　長い目で見て、子どもにとってどういう環境で授業を受けていくのが良いのか、その所だと思うんですよね。

委員　参考までに聞かせていただきますが、南上小ですが、天神原の子供たちはどうやって登校していますか。

事務局　バスです。

委員　もし統合になった場合は、そのままバスが延長ということですね。伊浜と比べるとどうですか。

副会長　伊浜の方が遠いですね。

委員　時間が長いと大変ですね。

委員　バス停から家までが遠い子もいます。

委員　伊浜の場合は、一町田の子がいて、統合前は保護者が一町田のバス停まで送っていましたが、統合後は朝だけ、伊浜の方が毎朝送っています。

事務局　今の話しの補足ですが、三浜小が統合するにあたり、準備段階でどうしてもバスダイヤが合わなかったです。朝だけ運行委託しています。

会長　メリットデメリットは以上にしますが、他にはありますか。

委員　今日の話しの中で、少人数ではなかなか人間力が育たないというような表現がありましたが、複式学級の子たちが切磋琢磨できなくて人間の生きる力があんまり伸びないという目で見るのか、今の南伊豆町の形態で行くと、中学校に行くと人数がそろいますよね。そのところで副会長にも聞きたいのですが、複式の子が中学校に行ったわけではないですが、南上小の少人数の子たちが、中学校に入って、今の現状は劣っているのですか。南上小の子は切磋琢磨できていないというか、どうですか。うまく言えないですけど。学力は少ないほうが良いと言いましたよね。私もそう思うんですけど。行き届いた環境で、子供たちの基礎学力を見ればもしかしたら学力が上がるかもしれない。大人数では落ちこぼれもいますよね。それを引き上げればいいんですけど、それを引き上げるなら少人数を引き上げた方が少しは良いのかと。そのあたりを見て、本当に少人数が生きる力が育たないのか、集団の中で人間力が上がるのかというのが果たしてどうなのか所を、今中学校に通っている南上小卒業生はどんな感じなのかなと現状をわかる範囲でお願いします。

副会長　その観点でだけ見ていないのですが、やっぱり入学当初は集団の中に溶け込みにくいところはあります。それは少人数から大人数になるわけですから臆する部分もあるでしょうから、ただ、ずっとそうなのかというと年月が時間の経過とともにちゃんと普通になっていきます。どれが普通かといえばともかくですが、目立たなく気にならなくなっていきます。ただ少人数で社会性が育つのか育たないのか言えば、それは育ちはありますよ。それは比較論の話しで、大勢だったらそれは早いですよ。やっぱりそれだけ多くの人間関係を作るわけですから。それは人数の話しですよ。人数が多くなればいろいろなタイプの人間と付き合わなければならない。ときには攻撃的な子もいるでしょうし、ときには自分がかばわなくてはならない子もいるでしょうし、そういう中でそういう力を身につけていきますよ。それは 3 人よりは 5 人、5 人より 10 人の方が社会性は身についてきますから。それは人数の法則でしょう。じゃあ南上小の子がどうかというと、やはり入学当初は南上小の子で固まる。しょうがないです。三浜小の子だってそうです。ただ三浜小の子は南中から来るのでそういうのは見られないようになっていくでしょう。東小が、竹麻小と南崎小と一緒になりましたが、最初のころは確かに竹麻のこと南崎の子でした。だけど今はそれがありませんね。東小の子で入ってきますから。ということなんですよ。だからどの時点でそれをやるのかということ、社会性がぐんと伸びる年ごろ、年齢が

いつになるのかということだと思います。南上小の子が社会性がないかといえばそんなことはありません。ただ他の子に比べると経験は少ないでしょうね。経験値としては少ないかなと。だいたい良いお子さんたちじゃないですか。こじんまりとまとまっているので。思いやりもあるし。それはそれでずっと来ているので、攻撃的な子や守ってやらなければならない子がいると成長は早いです。成長においてはそういう子もいてよいとも思われます。彼らはそうやって気づいて成長していきます。

委員　南上には、南伊豆町で生まれて小学校に行くのは当たり前ですが、それ以外に都会からわざわざ南伊豆町に移り住んでくる方もいます。そういう方は、結構な大クラスを経験した、競争の激しい学校を経験した、そういう方が、わざわざ田舎の学校で暮らしたい、小さいときはそういう学校に行かせたいと言っています。いずれ中学校に行けば大きくなり、高校に行けば大きくなり、それをわかりきっている方がわざわざ南上に住みたいという事実もあります。

事務局　恐らくなんですが、今後のスケジュールで申したアンケートは、未就学児の子どもがいる世帯、これから子どもを生むであろうという世代に意見を聞く必要があると思います。その中で、この審議会から出すアンケートは、第１回目でやった現状、今日語られたメリットデメリット、次回の地域における学校、それらをまとめて、子ども第一目線で行くというタイトルでアンケートとなるのかと思います。ここは確認したいところですね。

委員　アンケートの対象範囲はどのあたりですか。

事務局　他地区の意見を尊重するのもどうかと思いますので、南上地域が中心になると思います。

会長　南上地区のどの範囲になるか、親だけなのか地域住民も含めるのか、アンケートを取ってどういう考えで行くのか、どういう考えなのかを知ることも必要かなと。

事務局　誰から、どの世代からのアンケート回答なのかを比較するのも重要だと思います。

委員　　一度、自分たち南上地区の区長さんらと話し合いをしようと思っています。事務局でアンケートを用意してくれるのであれば。

事務局　　アンケートは皆さんに内容を確認を取ってから行います。事務局も必要であれば区長さんの会議に出向くことも可能です。事務方なので、現在の審議会の状況報告だけになりますが。

会長　　それでは複式については終わります。今後のスケジュールをお願いします。

事務局　　次回も、会長、副会長のスケジュールを確認して開催通知を発送します。

（終了）